

~~~~~  
**掲 示 板**  
 ~~~~~

東京天文台助手公募

東京天文台では、子午線部門及び野辺山宇宙電波観測所勤務の助手各1名を公募します。

(1) 子午線部門：自動光電子午環の建設と開発及び子午環による天文学の研究に従事する。

(2) 野辺山宇宙電波観測所：現在建設中の電波望遠鏡の設計・製作に参加，完成後は現地で観測・開発・研究に従事する。

応募資格は大学院修士課程修了相当以上。応募者は履歴書，論文リスト及び別刷（共著の場合は分担した役割を明記する），及び研究上の抱負（簡潔に）を

(1) については

〒181 三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台
 山下泰正教授

(2) については

〒181 三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台
 守山史生教授

あて 昭和54年7月9日(月)までにお送り下さい。封筒に「助手応募書類」と朱書のこと。

東京天文台長 末元善三郎

東京大学理学部天文学教室公募

下記により公募いたします。希望者の応募，適任者の推薦をお願いいたします。

1. 公募人員……助手1名。
2. 専門分野……天文学。
3. 就任時期……できるだけ早い時期。
4. 掲出書類……履歴書，研究論文リスト，推薦書（他薦の場合）。
5. 締切期日……昭和54年7月31日
6. 宛 先……(〒113) 東京都文京区弥生 2-11-16
 東京大学理学部天文学教室 主任
 高倉達雄

~~~~~  
**雑 報 III**  
 ~~~~~

太陽物理京都セミナー参加始末記

京都までのうんざりするような長旅の電車の中で，眠たい頭で考えた。76年に底をついた太陽活動は77年秋口より急速に勢いを盛り返し，今年後半に予想される極大期は前サイクルを凌ぐ激しさとなるだろう。17 GHz 干渉計の抜本的改修・高性能化を昨年夏に完了し，前とは面目を一新した観測布陣でこれを待ち受ける東京天文台野辺山グループにとって今は正念場である。まだ観測機器の整備や解析プログラムの開発など残務整理に追われているので，今回のセミナーでの我々の報告は予備的なものにしかならないが，いろいろな研究が今度の干渉計での観測から出来そうだ。更にプラス・アルファの研究テーマをこのセミナーの場で，ヒントぐらいは得たいものだ。……それにしても，暑い，暖房過剰だ。中央西線のこの振り子電車は乗り心地が悪く，酔ってしまいそうだ。これが国鉄自慢の特急では赤字も首肯される……。関西弁が耳をくすぐる京都駅に着いた時には陽も暮れかけで，電車4本乗り継ぎの，片道9時間の旅はつらかった。

表題のセミナーは2月8～9日，京大会館で行なわれた。以下はその印象記であるが，まず準備その他の裏方さんの御苦労に謝意を表すと共に，熱心な多くの報告に

ついて紙数の都合でここに触れられないことをお断りしておく。

セミナーの報告の第一番は今年中に動き出す予定の飛騨天文台ドームレス望遠鏡の建設状況についてだった。一日も早くの活躍開始を期待したい。

セミナーの特別テーマ「紅炎の研究」について黒河氏，田中（捷）氏その他の諸氏より報告があり，印象深く拝聴した。人工飛翔体からのEUV観測について神野氏がレビューをされたが，最近わずかに10年で観測機器が著しく改善され分解能がもう1秒角に接近しているということが，低分解能に悩まされる我々電波屋を歯ざりさせた。今さらのことではあるが。

1秒角以下の高分解能観測による粒状斑の研究（川口氏ら京大グループ），フレアの分類研究（日江井氏）等々，天文の他分野の人からはなかなか理解されにくい太陽物理の複雑さと，それに向かって遅々としていても歩みを止めない研究の現状が良く理解できた。

理論家からは，シンガポールより来日中のB. C. Low氏が“The False Equilibrium of a Force-Free Magnetic Field”を，鎗木氏・桜井氏・内田氏らが磁場の形態学を報告された。Low氏の話は，彼の数年来追求してきた話題であり，さすがに着眼点が興味深かった。では一体何が“True Equilibrium”なのか？ まだまだ正解までの途は長くけわしそうだ。

研究会というものは，時に眠気が襲ってくる。呆気た頭で考えることは「太陽物理は何故難解か？ 理論屋は

“Schematic, Over-simplification, Super-idealization”の三語で特徴づけられ、他方観測はますます詳細になっていく……」。

電波グループよりの貢献は今回はあまり大きなものではなかったように思う。藤下氏・柴崎氏らからの報告は議論を呼ぶものではあったが……。京都よりの帰り途、

豊川の空電研に寄り道をして、データの比較検討という道草を食ってきた。次の機会には自分も重要な研究成果の報告をしようという決意の、これは第一歩である。少なくとも帰りの電車の中では、あれもやれそうだななどと、捕らぬ狸の皮算用が出来ただけ住きの長旅ほどは苦痛を感じなかった。
(小杉健郎)

賛助会員名簿

(1979年3月5日現在の国会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	松本三郎	地人書館	中田威夫
朝日新聞社科学部	木村繁	天文博物館	
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	五島プラネタリウム	五島昇
岩波書店	岩波雄二郎	東京電力株式会社	木川田一隆
宇宙開発事業団	島秀雄	東北電力株式会社	若林彊
沖電気工業株式会社	佐藤敦之	長瀬産業株式会社	
近江屋写真用品株式会社	野呂幸義	コダック製品部	広田悟
カールツアイス株式会社	波木泰雄	ナルミ商会	村上俊男
関出書房新社	佐藤皓	日本光学工業株式会社	彌永恭二郎
関西電力株式会社	芦原義重	法月鉄工所	法月惣次郎
関東電気工業株式会社	関井忠夫	富士通株式会社	
啓文堂松本印刷	松本喬	システム統轄部	松田季彦
恒星社厚生閣	佐竹久雄	丸善株式会社	飯泉新吾
五藤光学研究所	五藤斉三	三鷹光器株式会社	神田和勝
金光教本部教庁	金光鑑太郎	三菱電機株式会社	
誠文堂新光社	小川茂男	宇宙開発発部	土井博之
谷村株式会社新興製作所	谷村恒男	ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄
サンシャインプラネタリウム	堀家那	大阪市立電気科学館	辰・博

1979年4月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	10,	120	6	7,	83	11	7,	36	16	8,	71	21	7,	33	26	—,	—
2	—,	—	7	8,	77	12	9,	45	17	12,	84	22	7,	23	27	—,	—
3	—,	—	8	—,	—	13	9,	77	18	10,	75	23	7,	37	28	11,	103
4	6,	90	9	5,	35	14	9,	104	19	—,	—	24	6,	44	29	12,	106
5	—,	—	10	5,	24	15	—,	—	20	—,	—	25	6,	60	30	77,	102

(相対数月平均値: 106.6)

昭和54年6月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13592